

復旦大学セメスター留学便り 9月 (引率教員版)

上海市にある復旦大学でのセメスター留学が始まってから、1ヶ月が過ぎました。
この1ヶ月あまりの様子をお伝えします。学生版と併せてご覧ください。

8月28日(木) 羽田発 JL081便で上海(虹橋空港)へ。

空港からは復旦大学が用意したバスに乗り、30~40分で大学に到着しました。初日は宿舎に落ち着いた後、日用品を買いに出かけました。

8月29日(金) オリエンテーション・開学式・学内見学

復旦大学中国語文学系(中文系)の先生による、ささやかながら心のこもった開学式が行われました。昼食にもご招待いただき、到着後初めての円卓料理に、学生たちは興味津々でした。四川料理で辛いものが多かったせいか、箸が進まない学生もいたようです。

8月30日(土) 市内観光(外灘・城隍廟・上海博物館・浜江大道)

9月1日(月) 授業開始

復旦大学の新学期(新学年)がまだ始まっていなかったこともあり、しばらくは時間割が確定しませんでした。例年は4ヶ月だった留学期間を3ヶ月に短縮しつつも授業時間を例年並みに確保するために、ややきつい時間割となっています。土日は終日休みですが、平日はほぼ毎日4~5コマ分の授業があります。

9月6日(土) 京劇鑑賞

中文系の企画で、市内にある劇場で京劇を鑑賞しました。初めて観るという学生が多かったのですが、台詞が聞き取れないためか、寝てしまったとのことでした。

9月8日(月) 中秋節(休講)

【学修面】

宿題が多くて大変、という声は毎年聞こえますが、今年は例年より授業が終わる時間が遅いので、平日は遊びに行く余裕がなさそうです。

復旦大学中文系が本学用にプログラムを組んでいるため、復旦大学の学年暦とは授業期間等の相違があります。復旦大学の授業開始は15日からで、本学の学生が学修環境に慣れて来た頃、学内が新入生や在校生で賑やかになってきました。中国人学生と交流する機会はこれからです。

授業には慣れたようですが、積極的に発言できるまでには到っていないようです。一般的に、日本の学生は欧米の学生に比べて発言が少ないと言われますが、今回も担当教員に同様の指摘を受けました。せっかくの機会なのですから、間違えることを恐れずに発言を続け、中国語を使えるようになって欲しいものです。

【生活面】

現在のところ上海の大気の様子は良好で、PM2.5 の平均濃度が日本の環境基準値（一日平均値）を越すことは滅多にありませんでした。

大学内は緑豊かで、定期的に手入れもされているようです。市内にも公園や街路樹が多く、大都市にしては緑地が多いせいか、風が心地よく感じられます。雨が続くこともありましたが、晴れた日には空がきれいで、前述のように大気汚染の心配もそれほどないため、総じて過ごしやすい環境だと言えます。

学内の運動施設は無料で利用できるため、テニスやバスケ、サッカー等、体を動かすこともできます。ランニングをしている学生もおり、健康的に過ごしているようです。

学生の宿舎には厨房もあり、自炊している学生もいれば、外食している学生もいます。食べつけなかった中華料理にも慣れてきて、それぞれ行きつけの店などができたようです。

(引率 佐川 記)